公開・非公開の別	■公　開　□部分公開 □非公開

第１回浜松市外国人市民共生審議会会議録

１　開催日時　　令和５年６月３０日（金）　午後３時００分から午後４時３０分

２　開催場所　　市役所　本館８階　第３委員会室

３　出席状況

委　　員　アルバレズ・アントニ
小笠原　盟
川越　レニ
グエン　ティ　タン　トゥイ
クマラプラタマ
シム　キュマン
丹野　清人
トリゴエ　デイゼ　マミ　（敬称略・五十音順）

事務局　国際課 課長　松井　由和
国際課 課長補佐　古橋　広樹
国際課 主任　影山　侑里奈
国際課 一般職員　山村　果穂

４　傍聴者　　２人（一般：０人、記者：２人）

５　議事内容　（１）委員長・副委員長の選任
（２）浜松市の多文化共生施策について
（３）今後の審議のテーマについて

６　会議録作成者　　国際課　山村　果穂

７　記録の方法　　発言者の要点記録
録音の有無　　有・無

８　会議記録

1　開会・挨拶

《国際課長挨拶》

《委嘱書の授与》

《事務局職員紹介》

2　委員自己紹介

《各委員による自己紹介》

3　議題

（1）　委員長・副委員長の選任

《事務局から審議会の趣旨説明後、委員の互選により委員長及び副委員長を選出》

委員長　　丹野清人委員
副委員長　川越レニ委員　で決定した。

（2）　浜松市の多文化共生施策について

《事務局から説明》

（3）　今後の審議のテーマについて

（事務局からの説明に対する意見・感想、今後の審議のテーマについて）

（川越委員）

数ヶ月前に静岡県の防災管理センターに行きました。地震の震度いくつはこのくらいとか、そのようなことも体験しました。より多くの人たちがこういうセンターを見に行けるとよいと思います。そこでは、災害の備えとして何をどのくらい用意したらよいのか、綺麗に並べて展示されていたのもよかったです。今度HICE（浜松国際交流協会）が防災訓練をやると聞いています。聞くだけではわからないので、訓練などで、目で見て感じることが重要だと思います。

（アルバレズ委員）

浜松市の防災学習センターには、HICE の外国人防災リーダーの研修で行ったことがあります。そのときは、残念ながら大雨で地震体験はできませんでしたが、たしかに「目で見る」ことで、危機感をすごく持つ体験になりました。例えば、外国人や外国人の子どもに通訳をつけて、みんなで行くのはどうでしょうか。そういうところからやっていけば、自然と危機管理ができるのではないでしょうか。

（クマラプラタマ委員）

HICE と遠州病院の防災訓練に参加したことがあります。浜松市でも、そのような訓練を実施

したらよいと思います。ただ話を聞くだけではなくて、体験できる場所や機会がもっとあったらいいと思います。多分日本人は地震があっても周りの人と話ができるけれど、外国人はパニックになったら、日本語では言葉が出てこないかもしれません。

（丹野委員長）
たしかにそうですね。通常時は、ついコミュニケーションができる状況で考えてしまうけれど、それができなくなってしまうことも想定しなければなりませんね。そう考えると、パニックを想定して、パニックにならないよう、落ち着いて行動するための助けになるようなツールなどを準備しておくことが重要ですね。また、訓練などの機会は、限られた場所だけではなく、いろいろなところであるといいですね。

（事務局）
例えば東日本大震災のとき、電話回線は完全に止まってしまいましたが、Wi-Fi は使えるということがありました。SNS を通じて情報共有するとか、そういう状況になったことを想定して備えをしておくことが重要ですね。訓練は、どのようなものかわからないから行かないという人もいるかもしれないので、例えば、訓練の様子がわかる動画を発信するというのはどうでしょうか。こんな訓練をやっている、訓練ではこんなことを学べるということを、そのコミュニティに向けて、参加した人たちが情報発信をしていくことができると、その場にいなくても訓練の内容を知ることができ、参加するきっかけになるのではないでしょうか。

（シム委員）
幼稚園、小・中・高校生までは、学校で防災訓練をやっています。大人になってからは、会社でやるところはあるかもしれませんが、仕事をしていない人は家にいて、そのような訓練に参加することはなさそうです。地震が起こったとき、日本人の妻は「このくらいなら大丈夫」という感じですが、私はどのくらいなら大丈夫なのか、あまり経験がないのでよくわかりません。私は日本人の配偶者なので、他の外国人よりは災害時に助けを得やすいと思いますが、経験がない外国人は、パニックになってしまうでしょう。経験のある人からの意見が欲しいのではと思います。例えば、子供が学校にいたらどうするか、学校に行くまでの橋がつぶれていたらどうするか、そういうことを考えますが、そのようなときにどうしたらよいのかイメージして、意見を話し合ってみる機会があるといいと思います。

（丹野委員長）
災害が起きて、家族と連絡がとれなくなったら、外国人、日本人は関係なくパニックになる人はいると思います。「こういうことがあったらこうしましょう」という訓練を防災ウィークで実施して、その動画をあらゆる人に向けて市のホームページにあげるのもよさそうですね。公務員や学校の先生は、災害時には自宅になかなか帰れませんが、そのようなときどうやって子供と連絡するのかとか、そういうことも、実は私の家族もあまり決めていません。実は外国人、日本人は関係なく、住んでいる人誰もが同じ状況に陥るのだから、一緒に考えたいことですね。

（事務局）

大規模災害が起きたときに何をすべきか、TODOリストのようなものもあるといいですね。まずは家族の身の安全を確認するとか、避難所はどこか、とか。平時から準備しておくべきものや、大規模災害が起きたときにしなければならないことなど、あらかじめ想定される行動計画のようなものがあるといいですね。

（トリゴエ委員）
ブラジルではあまり地震はありません。東日本大震災のとき、ブラジル人は怖いから、すぐに帰国しようとしました。

（川越委員）
インドネシアでもスマトラ沖地震、ジャワ島の地震がありました。日本人は防災の意識が高いというけれど、慣れてしまっているようにも思います。

（グエン委員）
私は日本語が完全に理解できないことが一番問題です。音声の説明だけだとわからないことも、動画ならよくわかることもあります。私の住む町では、大雨のときには「２階に移動してください」といったお知らせや放送がありますが、日本語がわからない人には伝わらないと思って、私は友達に「２階に移動して」とメールしました。私はお知らせがあるよりも、情報が集まっているホームページで確認できるほうがいいと思います。防災訓練に参加したいと思っている人は多いと思いますが、どこでやっているのか、いつあるのか、調べ方もわかりません。

（小笠原委員）
何回か（小規模な）地震を経験してから「これぐらいなら大丈夫」とわかるようになりました。経験していないことは不安です。例えば、外国人に、災害を体験できるような移動車を使って、まずは経験してもらうのはどうでしょうか。「別に行かなくてもいい」という人に対しては、ポイント制、スタンプラリーのようなメリットがあれば、行こうという気になると思います。それで経験した人から口コミで広がります。
それから、緊急時の放送は、外国人が多い地域では、日本語の放送のあとに中国語や英語などでも放送を流すのはどうでしょうか。

（丹野委員長）
防災の情報なんて、数パターンしかないですものね。あらかじめ伝えなければいけない情報はパターン化されているものだから、それが確実に流れるようにすることは合理的だと思うし、やろうと思ってできないことではないですよね。

（アルバレズ委員）
ホームページの話が出ていますが、浜松市のホームページはあまり見られていないように思います。でもＳＮＳは毎日見ますので、せっかく予算をつけて作るなら、コミュニティに顔がきく方に動画を撮ってもらって配信したほうが、僕はよいと思います。おそらく、防災情報はすでに様々発信されていると思うのですが、情報があるのに、届いていないのが問題だと思います。ある程度

年齢が上の方はホームページを見たり、検索したりするでしょうけど、若い年代の方は、何か調べたいと思ったらまずはＳＮＳを見るというように、情報の流し方にもう少しフォーカスしていってもよいのではないかと思います。

（丹野委員長）：
１年目はこの「危機管理」のテーマで、活発に議論できそううですね。
次の「ライフステージに応じた支援」にもつながることですが、浜松市には、日本語能力試験（JLPT）の合格のためにかかる費用を事業所が負担する場合、補助金を支払うものがあります。たしかに、事業所単位で支援して、経営者の人たちに多文化共生施策に目を向けてもらうことはすごく重要です。しかし一方で、事業所を経由すると、よい事業所で働いている人はアクセスできても、そうではないと排除されることになりかねません。要するに、事業所単位で支援する部分と、それとは別に個人に対して支援できる仕組みを考えていけるとよいですよね。
例えば、日本語能力試験の受験料を負担するか、会場が静岡市なら、そこまでの交通費を負担するか、何か、個人で頑張っている人たちが報われる仕組みがあるといいと思います。

（シム委員）
私もJLPTを受けました。静岡市まで行かなければならないのは大変ですし、毎回浜松市内に受験会場があれば、もっと受ける人が増えそうですね。

（丹野委員長）
日本語を勉強するように言われても、その費用は自己負担だというのは、もちろん、勉強する側も勉強しなければいけないことはわかるのだけれど、やっぱり何か支援があった方がやる気になりますよね。

（川越委員）
合格したら給料のベースアップがあるとか、手当があったらみんな頑張りますよ。

（シム委員）
試験に合格したら、かかった費用の一部をあとから受け取ることができるなどはどうでしょうか。

（小笠原委員）
どうせタダだから、合格しなくてもいいや、となってしまうと意味が落ちてしまうので、合格した人にあとから奨学金があると効果的だと思います。

（丹野委員長）
やはりJLPTの合格者を増やす。そして、合格したことに対するメリットを作ると、随分と違ってきますよね。

（アルバレズ委員）

私は、JLPTは受験していません。というのも、会って話してもらえれば、日本語の能力をわかってもらえるので。でも、そのように報われるのであれば、やはり受けたい、頑張ろうと思うところもあります。私は仕事柄そういう就職相談も受けますが、何とか受かろう、何とか受かって正社員になろう、と頑張っている人もたくさんいます。

それに関連して、私はできたらもっと夜間のオンライン教室を増やしてほしいです。浜松市にはたくさん日本語教室がありますが、平日の昼間だと月曜日から土曜日まで仕事している方もいるし、じゃあ土曜日や日曜日、と考えると、月曜日から土曜日まで仕事して日曜日は何とか休みたい、もしくは家族で過ごしたいという人が、ほとんどだと思うのです。夜で、オンラインで、要は自宅で学べるものだったら、昼間のものよりは受けやすいのではないかと思います。さらにそこで勉強して頑張って、N3以上に合格したらいくらか何かインセンティブが市としてある、というような繋ぎ方だとよいです。日本語ができれば、仕事や生活にいろいろなチャンスができるので、自分の言語だけではなく、日本語を学んでもらうことがすごく大事なことだと思います。

最近Facebook などでライブセミナーのように情報発信をしていますが、やはり誰かが言ったことが間違ったまま伝わってしまうことがよくあります。例えば、国の給付金の情報など。自分で聞いて日本語がわかるのが一番ですが、完全にはわからなくても、ある程度わかったうえで、わかる人と答え合わせができるようになるのが重要だと思います。

(丹野委員長)

一方的に情報を受け取るだけではなく、わからないことを解決できることが重要ですね。

最後に確認ですが、事務局から説明があったとおり、3年間の任期で、1年目に危機管理体制の強化、2年目にライフステージに応じた支援、3年目に多様性を生かしたまちづくりというテーマを中心として、議論を進めていくことでよろしいでしょうか。

一同：了承。

《事務局からの連絡事項》

4　閉会